

2009年度

SONPO

第6回

小学生のぼうさい探検隊
マップコンクール

入選作品集



社団法人 日本損害保険協会

ご あ い さ つ

この「ぼうさい探検隊マップコンクール」も、今回で6回を数えます。本年度は47の都道府県全てからご応募をいただき、応募作品数も1,389点と過去最多となりました。また、回を重ねるごとに質の高い素晴らしい作品が増えており、主催者としては大変うれしく思っております。

さて、近年は、地球規模での気候変動の影響もあって、台風や洪水、豪雨や豪雪などの巨大自然災害が日本のみならず世界中で頻発する傾向にあります。損害保険は、こうした災害や事故によって生じた経済的な損失を補償することで、「安心」と「安全」をご契約者の皆様にお届けしていますが、こうした災害による人的・物的な被害を抑止・軽減するためには、行政、地域社会、国民一人ひとりが防災に対する意識を高め、備えることが重要です。そうした点からも、この「ぼうさい探検隊」は、子どもだけでなく地域全体の防災意識・防災力を高めるものとして、特に普及に力を入れている活動の一つです。

2011年度から実施される小学校の新学習指導要領では、安全教育に関する内容の充実が図られ、たとえば小学校3・4年生の社会科では消防や警察などが地域の人と協力して災害や事故の防止に努めていることを学習することになります。「ぼうさい探検隊」の活動など、子どもたちが実体験の中で「くらしの安全・安心」を学んでいくことは、今後より重要になってくるものと思われます。

また、この活動を通して、参加した子どもたちが防災について学ぶだけでなく、サポートしていただいたボランティアの方々、地域の皆さん等、多くの方々とのコミュニケーションが活性化されます。そして、そうした方々にも「防災の知識」を身に付けていただくことによって、地域の防災・安全意識の高揚に役立つという効用があるのです。

この入選作品集は、文部科学大臣賞をはじめ入賞された7作品と審査員特別賞を受賞された8作品をご紹介します。「子どもたちの気づき」や「安全な地域になってほしい」といった願いを多くの方に知っていただきたく作成いたしました。

阪神・淡路大震災から15年が経ち、震災の恐ろしさが徐々に風化してしまうことを危惧する声もありますが、私たちは自然災害の恐ろしさ、防災の大切さを社会に、また次の世代に伝えていく責務があります。このような思いを強くしていただく一つのきっかけとして、この入選作品集をご活用いただければと思います。

最後に、この活動にご賛同いただき、惜しみないご協力を賜りました政府機関、関係団体の皆様方、マップコンクールにご参加をいただいたすべての皆様に、改めてお礼を申し上げます。

2010年2月

社団法人 日本損害保険協会

会 長 佐藤 正敏

主 催

社団法人 日本損害保険協会／朝日新聞社／ユネスコ
特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク

後 援

内閣府／総務省消防庁／文部科学省／警察庁
全国都道府県教育委員会連合会／アジア防災センター
社団法人 日本ユネスコ協会連盟／日本ユネスコ国内委員会

Contents

第6回

小学生のぼうさい探検隊 マップコンクール

フォーラム	2~3p
本審査	4p
審査総評	5p
入選作品	6~23p
応募状況	24~25p



フォーラム

表彰式

2010年1月23日(土)に、東京都の国際ファッションセンタービルにおいて第6回「ぼうさい探検隊フォーラム」が開かれ、あわせてマップコンクール表彰式が行われました。



プレゼンター、入賞の児童・指導された担当者の方々と一緒に記念撮影



防災担当大臣賞を受賞した「佐野防災8 (エイト)」の松山さん



ぼうさい探検隊賞を受賞した「安来島キッズ探検隊」の濱口さん



わがまち再発見賞を受賞した「みんな安心手だすけマスターズ」の片岡さん



インタビューに答える文部科学大臣賞を受賞した「チューチュー久留女木隊」の和出さん



まちのぼうさいキッズ賞を受賞した「前中町少年少女消防クラブ」の森田さん



消防庁長官賞受賞の「もみじっ子防災探検隊」と関係者のみなさん



入賞作品と共に、未来へのまちづくり受賞者の「びわこスマイルガールズ2009」のみなさん



フォーラム会場内は満席

プレゼンテーション・メッセージ



大学と地域とのコラボレーション事例を発表する
明治大学商学部の学生の皆さん



板橋区立高島第一小学校校長 矢崎良明先生による
プレゼンテーション



プレゼンテーションに登場した久留女木小学校 加藤先生と
「ビュービュー久留女木隊」のみなさん



東京学芸大学 渡辺正樹教授（日本安全教育学会 常任理事）に
よるメッセージ

本審査会

全国の小学校や子ども会など 297 校・団体から、1,389 作品もの応募があり、厳正なる審査を重ねた結果、入選 15 作品を決定しました。

全体的な傾向

- ・小学校と地域団体（ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会、少年消防クラブなど）の応募比率は、小学校が 155 校で 52%、地域団体が 142 団体で 48% でした。
- ・地域災害の特性をとらえ、実際に災害を想定した探検活動がうかがえる作品が多く見られました。
- ・探検活動を通して地域住民とのコミュニケーションを持つなど、地域全体での防災意識の高まりを感じられる作品が増えています。

地域性

- ・全国 47 都道府県から幅広くご応募いただきました。（前回 46 都道府県）
- ・県別の応募団体数では東京都が 47 校・団体でトップ、次いで神奈川県が 22 校・団体となっています。

学年別

- ・小学校からの応募では 4 年生がもっとも多く、5 年生と 6 年生がそれに続きます。1・2・3 年生の応募は全体の 14% でした。
- ・団体からの応募の場合は、1 年生～ 6 年生までが一緒にまちなか探検を実施して作成したものが多く見受けられました。



本審査委員

室崎 益輝 氏（審査員長）
関西学院大学総合政策学部教授

長岡 佳孝 氏
文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課 安全教育調査官

山崎 速人 氏
内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（総括担当）付企画官

飯島 義雄 氏
総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長

清水 宣彦 氏
文部科学省 国際統括官付国際統括官補佐

柄谷 友香 氏
名城大学 都市情報学部 准教授

阿角 晃 氏
朝日新聞社 お客様本部長

寺本 弘伸 氏
特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク 常務理事

栗山 泰史 氏
社団法人 日本損害保険協会 常務理事

審査総評



審査員長 ^{おのゝ だいすけ} 室崎 ^{よしてる} 益輝氏
神戸大学名誉教授・関西学院大学教授

マップが「力」を持つようになってきた

今年度の審査の中で特に感じたのは、「マップが力を持つようになった」ということです。小学生の皆さんが作ったマップを、そのまま地域の皆さんに配っても、地域の安全に十分に役立つものになってきました。子ども達の「伝えたい」という気持ちが、マップの中に強く表現されてきているわけです。そうした意味で、マップが本当に「力」を持つようになったと実感しています。

「危険な場所」だけでない、新しい気づきも

第二点は、新しい気づきがあちこちで生まれてきている、ということです。

たとえば、今までは危険な場所、危ないところを調べてきたけれども、今回は安全なもの、安心できる場所を調べたという作品も多くありました。子ども達が、自分たちは周りの人々の絆や見守りによって支えられていることに気づき、社会の愛情を感じていることがわかります。

気づきの2つ目は、高齢者に対するいたわりです。お年寄りのことについて何らかの思いを馳せている作品も多く、地域のお年寄り自分達は一体だということ、子ども達はしっかり身を持って示しているといえます。お年寄りだけでなく、障害者のことや赤ちゃんのことまで考えている作品もあり、弱い立場の人たちへの愛情が子ども達の作品からほとぼり出ていたと感じました。

緻密な学習による高い教育効果

学習の緻密さも、多くの作品で印象に残りました。地域の危険性をしっかり調べる中で、過去の災害をしっかりと学んでいたり、自分達の足で非常に細やかな調査をした素晴らしい作品もたくさんありました。過去の災害の教訓や、これからやってくる災害の危険性について、単に本で勉強するのではなく、体でしっかりとらえる、そういう作品が増えています。

継続することの重要性と地域への効果

継続した取り組みを行っている学校や団体も増えています。去年と今年で防災対策はどう進んだかをチェックしていたり、何年も継続する中で大人の防災意識が変わったことに気がついたという作品もあります。単に目に見えるものだけではなく、大人の気持ちといった目には見えない変化にも、子ども達が気付いているのです。

子どもが変われば大人が変わる、

大人が変われば地域が変わる

私はこのぼうさい探検隊を通じて、地域に大きな3つの変化が起きていると感じています。一言で言うと、「子どもが変われば大人が変わる、大人が変われば地域が変わる」ということです。1つ目の「子どもが変わる」ですが、この取り組みを行っている地域では、もしかすると子ども達が地域の安全・危険について最も詳しくなっているのかもしれませんが。そうした子ども達の変化を見て、2つ目の「大人が変わる」ということが、ほんの少しずつですが着実に起きています。「子どもと大人のコラボレーション」の中心は、まさに子どもが担っているわけです。そして3つ目の「地域が変わる」ですが、マップが「力」を持つようになって、ぼうさい探検隊の取り組み自体が「力」を持つようになってきました。作ったマップを各所に働きかけた結果、まさに地域が既に変わってきている事例もたくさんあります。この取り組みは、単なる子ども達の教育の枠を超えて、地域づくりの大きな力になりつつあるのです。

今年度は初めて全ての都道府県から作品の応募があり、1万人を超える子ども達がこのマップコンクールに参加してくれました。本当に嬉しいことです。心から、御礼を申し上げます。



文部科学大臣賞

静岡県浜松市立久留女木小学校

【チューチュー久留女木隊】

3・4年生 4名

テーマ 防災・防犯・交通安全



防災教育に対する学習意欲が感じられ、かつ仲間との協調性が感じられる作品

評価されたところ

自分たちの小学校が今年3月で閉校になってしまう寂しさや、小学校は地域の安全を守る場所なので残してほしいという子どもたちの思いが伝わってくる作品であること、また、地域の伝説に登場するカッパや大蛇などを載せ、地域への深い愛着を感じられる作品となっている点が高く評価されました。



網の張られている箇所を確認しました



「チューチュー久留女木隊」のみなさん

工夫点

- ・危険な場所を写真と説明で表し、地域のみなさんの思いやりを場面ごとに地図のまわりに表した。危険地域は赤、思いやりはピンクのハートマークで表現した。
- ・久留女木らしい竜宮小僧伝説のカッパや大蛇などをマップに入れて、楽しい地図にした。

提言

- ・事故に遭わないよう、歩き方、自転車の乗り方など交通ルールをきちんと守ろう。
- ・地区のどこがどういう時に危険なのかをしっかりとっておこう。
- ・家族・先生・地域のみなさんの言うことをしっかりと聞き、進んであいさつしたり行事に参加したりしよう。

子どもたちの感想

- ・地区にこんなにもたくさんの「がけ崩れ危険地帯」があるとは知らなかった。
- ・地域の人たちが様々な工夫で僕達の命を守ってくれていることがわかった。
- ・遠い所まで自転車で探検できて楽しかった。

担当者の感想

- ・活動を通して子どもたちが多くのものを発見できたことが大きな収穫だった。
- ・子どもたちは、家族や地域のみなさんががんばっていることに気づき、自分たちも応えていこうと考えるようになった。

入選を聞いて VOICE



みんなと協力しあって、調査したり、マップ作りをしたから、こんなにすばらしい賞をいただいたのかな、と思います。うれしいです。地域のみなさんに感謝しながら、これからも、安全で楽しく生活していきたいです。
(和出 康汰さん)



3月で閉校となる年度に、このようなすばらしい賞をいただき、みんなで喜び合いました。マップ作りを通して、久留女木小の子どもたちが、地域に守られ、育てられたんだなあと改めて感じました。
(加藤 洋美先生)





防災担当大臣賞

徳島県三好市立佐野小学校

【佐野防災^{エイト}8】 5・6年生8名

テーマ 防災

佐野っ子探検隊 防災マップ

チーム名
佐野防災エイト
徳島県三好市立佐野小学校



選考基準

地域の防災意識向上につながる作品、地域住民の防災対策に役立つ作品

評価されたところ

まちなか探検のあとに児童たちが防災パンフレットを作り、地域のお年寄りに配布したり、児童が調べている様子とおまわりさんや地域の住民へのインタビューの様子が写真に収められていて作り手の表情が見え、エネルギーの感じられる仕上がりとなっている点などが高く評価されました。



地域のお年寄りの家をまわりました



「佐野防災日（エイト）」のみなさん

工夫点

- ・地図を見やすくし、一人一人の感想を詳しく書けるように工夫した。
- ・写真をできるだけ多く貼れるようにし、問題点や地域への提言を明確にした。
- ・避難経路の危険箇所の点検をした。

提言

- ・避難所を確かめ避難経路を決めておこう。
- ・非常持ち出し品を日頃から用意しておこう。
- ・災害についての放送（情報）をよく聞こう。
- ・隣同士の連絡、特にお年寄りの家との連絡はすぐできるようにしよう。

子どもたちの感想

- ・「急傾斜危険」の立て札があった。自分たちの住んでいる家の裏山が崩れやすいことがわかった。
- ・日頃はおだやかな川や谷も増水すると危険なことがわかった。
- ・お年寄りに防災のパンフレットを配るととても喜んでくれ、昔の災害について話を聞くことができてよかった。

担当者の感想

- ・自分たちのまちを防災という視点から見直すことができるよい機会となった。
- ・ぼうさい探検と同時に地域への啓発活動ができたことは、子どもたちにとって地域を知るよい機会となった。
- ・歩いたことのない山中や傾斜地を実際に歩くことによって、災害への危機感や行動について考えることができるようになっていっていると感じた。

入選を聞いて

VOICE



私は、みんなで協力して作った作品がたくさんのお蔭の中から選ばれたことを知って、とてもびっくりしました。マップ作りでは、探検に行った場所で聞いたお話を写真や地図でわかりやすくまとめました。去年に続いて受賞できてとてもうれしいです。
(松丸 結愛さん)



昨年は「防災から学ぶ」、今年は「自分たちにできる防災を」をテーマにマップ作りをしました。2年連続の受賞は児童にとってこれからも防災学習を進めていく上で大きなプレゼントになりました。お世話になった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
(岩佐 辰也先生)





消防庁長官賞

ガールスカウト日本連盟長野県第34団

【もみじっ子防災探検隊】

1・2年生3名

テーマ 防災



選考基準 消防の施設、設備がしっかり調べられ、災害発生時の被害軽減に役立つ作品

**評価
された
ところ**

「高齢者」をテーマに、地図に上乘せしたビニールシートに隣人の互助関係を矢印で表し、地域への関心がうかがえる作品であること、またアンケートを実施し、住民の家族構成・年齢を色分けして表示することにより、その地域にどんな人がいるか、すぐにわかるようになっていた点などが高く評価されました。



3人でなかよくマップを作りました



「もみじっす防災探検隊」のみなさん

工夫点

- ・アンケート結果を項目別にまとめ、住人の家族構成・年齢を色別に表示した。
- ・隣人の助け合いの互助関係をビニール上に矢印で表した。
- ・まとめの3項目を封筒に入れ、手紙のように取り出して読めるようにした。

提言

- ・〈区長さんへ〉松島区の防災倉庫に、早く毛布や食料の備蓄をしてほしい。
- ・〈常会長さんへ〉常会単位でAED、救急法、消火訓練などの講習会を実施してほしい
- ・〈組長さんへ〉となり組で気楽に集まれるふれあいサークルを結成しよう。

子どもたちの感想

- ・普段は見のがしてしまう消火栓やホース格納庫をどういう時に使用するか見て聞いて納得できた。
- ・1・2年生の3人で集まってマップを作ったことが楽しかった。

担当者の感想

- ・狭い範囲であるが、重要なカギを握っている「隣組」に焦点を合わせて取り組んだ。
- ・身近にいる人たちの災害に対する思いや防災意識についてアンケートに答えてもらい、「隣組」を大事にする人々が予想以上に多く安心した。
- ・さらに「隣組」の信頼関係を深めることで、非常時に底力が発揮されると思った。

入選を聞いて VOICE



「入しょうしたよ」と言われてうれしくてとびはねてしまいました。わたしたちが作ったマップが、みのわ町の人たちのやくにたてばいいなと思います。3人で力を合わせて作ってよかったです。

(玉舎 花梨さん)



1年生2人、2年生1人の3人で挑戦したマップ作り。まさかの入賞、しかも3年連続の入賞に喜びと共に賞の重みを感じました。地域の方々の温かい協力があって完成できたマップ。とても感謝しています。ありがとうございました。

(上野 良子さん)





まちのぼうさいキッズ賞

(ユネスコ提供)

広島県府中町^{ちょう}少年少女消防クラブ

【府中町^{ちょう}少年少女消防クラブ】

3・4・5年生10名

テーマ 防災・防犯・交通安全



選考基準

地域の情報を細かく取材し、子どもたちによる独自の提案が見られる作品

評価 された ところ

水害をテーマに、ビジュアル面に重点をおいて立体的に地図が作り込まれており、丸めた紙を使って山を表現したり、砂利を貼り付けて土砂崩れの様子を再現したこと、また消防署など誰もが知っている公共施設を目印にして、避難場所や危険箇所が記入されており、地図としての役割をきちんと果たしている点などが高く評価されました。



水路を調べました



「府中町少年少女消防クラブ」のみなさん

工夫点

- ・応募3回目となる今回は、視覚的に訴えるマップをコンセプトに、一部を立体的にしたり、配色に気を配ったりして分かりやすさを追求した。
- ・役場や消防署など、公共施設等を記入し、位置関係をわかりやすくした上で避難場所や危険箇所を記入した。

提言

- ・水害対策として水路、ポンプ場などの整備が進んでいるが、もっと自然を残しホテルなどがすめるようにし、憩いの場として利用できる場所を作ってほしい。
- ・これからも安全で安心して遊べるまちにしてほしい。

子どもたちの感想

- ・町内には災害から身を守るための工夫がたくさんあった。
- ・楽しく遊んでいた場所が意外にも危険箇所だということがわかりショックだったが、これから気をつけることができるのでよかった。
- ・自分たちの知らない学区での探検は、古いお寺や昔の城跡を見学でき、地域の歴史に興味があった。

担当者の感想

- ・探検中のうれしい発見に子どもたちが目を輝かせたり、ショックな発見に眉をひそめたりする姿に、体験以上の学習はないと実感した。
- ・子どもたちの「マップを立体的にしよう」、「色を使ってわかりやすくしよう」など工夫をこらす前向きな姿勢がすばらしいと思った。

入選を聞いて VOICE



私たちが作ったマップが全国入賞したと聞いてとても驚きました。調べているうちに、自分たちの地域には災害が起きた時のために備えてあるものがたくさんあると知って安心しました。入賞はとてもうれしいです。
(森田 菜生さん)



府中町消防署に属する私たちのクラブは、町の消防署の協力を得てマップを作成しました。探検を通し防災意識が高まり、わかったことを人に伝えて「命を守る役に立ちたい」という子どもたちの純粋な心が評価されうれしく思います。
(兼本 忠義さん)





未来へのまちづくり賞

(朝日新聞社賞)

滋賀県守山市ふけ町ふるさとクラブ

【びわこスマイルガールズ 2009】

4年生 2名

テーマ 防災・防犯・交通安全



選考基準

地域の特色や防災に関する情報が第三者にもわかりやすく表現されている作品

評価されたところ

犬を飼っている人の散歩コースを調べ、散歩時のルールや回覧板を作ってワンワンパトロールへの参加を地域に呼びかけるなど、自分たちでまちを守ろうとする意気込みを感じる作品であること、さらに、実際に地域の人たちがワンワンパトロールへの参加に同意するなど、児童たちの働きかけが実を結んでいる点などが高く評価されました。



飛び出しぼうやを調べました



「びわこスマイルガールズ2009」のみなさん

工夫点

- ・透明セロハンを3枚使い、犬の散歩コースや写真を貼って見やすくした。
- ・回覧板をたたんで引くと読めるようにし、小さくまとめた。
- ・犬の住んでいる所に写真を貼って、どこに住んでいるかをわかりやすくした。

提言

- ・道路に危ない所があったので、自治会長さんをお願いに行き「飛び出しぼうや」を置いてもらった。
- ・災害救援型自動販売機やワンワンパトロールのことをみんなに知らせるため回覧板を回した。

子どもたちの感想

- ・2人だったので字や絵を書くのがたいへんだったが、犬の飼い主さんに「ワンワンパトロールをがんばります」と言ってもらいうれしかった。
- ・いろいろな人にインタビューに行きドキドキしたけれど、親切にしてもらえて楽しい体験になった。
- ・危ない所だけでなく、安全な場所もよくわかった。

担当者の感想

- ・地域の皆さんの協力で町内が安全であることが、子どもたちにもよくわかった。
- ・飼い主さんのお宅へインタビューに行き、最後に「登下校の時間に合わせて散歩します」「子どもの多い所を散歩します」と言っていたらうれしく思った。

入選を聞いて

VOICE



入賞したよと聞いて「やった!」と飛びはねて喜びました。初めは4年生2人なので大丈夫かなと不安でしたが、ワンワンパトロールの協力や見守ってくれた地域の方のおかげでマップが完成しました。来年も協力してがんばってチャレンジしたいです。
(井上 珠里さん)



4年生2人で作成したマップがこのようなすばらしい賞をいただき、とてもうれしく思います。町内の身近なことをテーマにして、自分たちで気づいたことをマップにまとめ仕上げました。マップ作りはたくさんの人たちに出会い、子どもたちが地域で大切にされていることを実感する良い機会になりました。ありがとうございました。
(長谷川 恭子さん)





クラスみんなでまちなか探検に出発!



「みんな安心手だすけマスターズ」のみなさん

工夫点

- ・スロープや点字ブロックなどのマークを地図上に表した。
- ・マークをたくさん入れたので、マークの説明をくわしく書いた。
- ・誰にとって使いやすい道なのかわかるように人の絵を貼った。

提言

- ・音の鳴る信号、手すり、自動ドア、スロープをふやしてほしい。
- ・段差はできるだけなくしてほしい。
- ・自分たちにとって安心・安全な道を知ってほしい。お互いゆずりあい、助け合って避難してもらいたい。

子どもたちの感想

- ・自分たちの町には手すりや、スロープ、点字ブロックなどたくさんの優しさがあることがわかった。
- ・自分にとって便利な道でもその道が他の人にとって安全であるとは言えないので、一人一人が自分にとって安全な道を見つけなければならないことがわかった。

担当者の感想

- ・今回の探検から一人一人が自分にとって安全な道を把握することの大切さと共に、お互いを思いあう心、自分の命もみんなの命も守ろうという心を学び、その意識を高めることができすばらしい機会となった。

入選を聞いて

VOICE



防災マップにまとめるのは大変だったけれど、10人の仲間たちできょうかして作った作品がrippanしょうをもらえて、とてもうれしいです。いろいろなことを教えてくれた地いきの人たちにお礼を言いたいです。
(片岡 況貴さん)



マップ作りをする中で地域の人が様々な工夫や努力をしていること、ふだん何気なく見ているものにも、人を気づかう思いが詰まっていることに気付くことができました。それは10人で考えた「手だすけマスターズ」の名前にも込められています。ありがとうございました。
(太山 睦子先生)





ぼうさい探検隊賞

(日本損害保険協会賞)

三重県鳥羽市安楽島子ども会

【安楽島キッズ探検隊】

5・6年生 4名

テーマ 防災



選考基準

地域や人々とのつながりおよび安全・安心への意識の高まりが感じられる作品

評価されたところ

昭和34年に発生した伊勢湾台風と、秋に発生した台風18号とを比較することで、「自分たちにも関係すること」をしっかりと認識していることがうかがえること、二つの台風の被害を定点で比べ、地域の人たちから聞いた伊勢湾台風の体験談を盛り込むなど、上手に調べた作品であり、ラジオやライトなどの配備状況といった防災対策の調査を実際に行っている点なども高く評価されました。



台風被害について聞きました



「安楽島キッズ探検隊」のみなさん

工夫点

- ・伊勢湾台風の体験談、台風18号の被害などのインタビューを載せて防災への問題提起をし、台風被害の写真も多く載せて台風の様子がよくわかるようにした。
- ・ラジオやライトの備えを調査し、「日頃から備えている」を青、「買ってくる」を黄、「電池切れ」を赤のシールで表現した。

提言

- ・台風や地震などの災害はいつ起こるかわからず待つはくれないので、日頃の備えや心がまえが大切である。
- ・災害が起きた時に、1人暮らしのお年寄りなど助けが必要な人がいるので、近所や地域の人たちで話し合いが必要だと思う。
- ・調査したら懐中電灯の電池切れの家があったので、電池切れの心配のない「蓄電式」のものに替えた方がいいと思う。

子どもたちの感想

- ・伊勢湾台風のアニメを見たり、地域の人たちから台風の体験談を聞いたりしたことで、災害の怖さがあらためてわかった。
- ・住宅の被害の他にも、船の転覆やカキ養殖のいかだが流されるなど漁業の被害が多いことがわかりびっくりした。

担当者の感想

- ・聞き取りでは付添いの大人のサポートで多くの方にお話が聞け、子どもたちには貴重な体験であったと思う。
- ・10月に大きな台風が来たこともあり、地域の人たちから伊勢湾台風の体験談をしっかりと聞き、多くの意見も出ていたので地域全体が防災に関心をもったと思う。

入選を聞いて VOICE



今年も賞がとれてとてもうれしかったです。台風の被害が残っている町中をみんなでアンケートをとりました。台風のおそろしさがすごくわかりました。マップをもとにちゃんと備えをしていきたいと思いました。
(濱口 明子さん)



伊勢湾台風をテーマにしていたところ、台風18号の通過で被害(子どもたちには2日間の停電が大きい)を受けたことで、より一層問題意識を持ってのぼうさい探検となりました。よりリアルでタイムリーなマップができたと思います。今後も地元の協力を得ながら続けていきます。
(浜口 敬司さん)





審査員特別賞

宮城県大崎市立三本木小学校防災探検隊 さんぼんぎ 【三本木小学校防災探検隊】 さんぼんぎ 5年生16名



「賞に入ったぞ」と聞いてびっくりしました。私たちの身近な所には危険な場所も多く、知らない場所に災害用のトイレや自動販売機・井戸・AEDを発見することができ、とても勉強になりました。今同学んだことをいかして、災害の時は互いに助け合いたいと思います。

(國井 綾乃さん)



地域防災スクール防災探検隊のメニューとして防災マップ作りやサバイバル炊飯・簡易ランタン作りなどを実施しました。この活動を通して、町の中を探検するという道草的な楽しい要素の中で学習できたことは、夏休みの大切な思い出になったと思います。

(遠藤 博樹さん)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・過去に災害にあった地域であるために児童たちの意識が高く、防災施設や崖などの危険な場所をよく調べている。
- ・バケツリレーなど実際に消火活動を体験し、レポートとしてマップの中で紹介されている。

日本ボーイスカウト埼玉県連盟草加第7団【カブスカウト隊】 さんぼんぎ 3・4・5年生5名



たくさんの応募のなか、入選したことを聞きびっくりしました。草加市の危機管理担当の方より地域の洪水を中心に情報をたくさんいただき、それをもとにマップを作成しました。得た知識を活かせると良いと思います。

(神庭 悠真さん)



自分たちの素朴な疑問について家庭、地域そして自治体の多くの方々とお話をする機会ができました。お世話になった方々に心より感謝いたします。日頃から「そなえよつねに」を大切に、今後も活動していきたいと思えます。

(浪田 真輔さん)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・浸水被害が起こりやすい地域特性をうまくとらえ、表現されている。市役所の災害対策室に取材を行い、過去の被害例を取り上げた地域性のある災害対策マップとなっている。
- ・市役所への質問項目が非常に練りこまれており、家庭における世代間の意識の広がりも感じられる。



審査員特別賞

石川県輪島市立鳳至小学校【鳳至見守りキッズ】

6年生5名



災害が起こったあ時に、多くの人たちに役立ててもらいたくて、このマップを作りました。完成できるか不安でしたが、みんなと協力してとてもいいマップができました。入選するなんて思ってもいませんでした。がんばってよかったです。
(坂水 なつみさん)



怖かった能登半島地震をふり返り、再び災害が起こった時に地域の中でどのように助け合っていけばいいのだろうかと考えることができました。マップ作りを通して成長することができました。ありがとうございました。
(古坂 祥子先生)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・2007年に発生した能登半島沖地震の被害を風化させずに防災意識を高めようという気持ちが伝わってくる。
- ・震災体験をもとに、避難先での過ごし方についても児童たちが提言を行っている。

静岡県浜松市立伊平小学校【伊平の安全守り隊】

5・6年生13名



夏休みに防災フェアに参加したことがきっかけとなって「防災」をテーマにマップを作りました。3年前と比べて地域全体の防災意識が高まっていることがわかりました。今年も入選できてうれしいです。
(野沢 翔汰さん)



「今年も防災マップに挑戦したい」という子どもたちの声に後押しされて取り組みました。年々相手を意識したマップ作りができるようになり、安全安心な町への意識も高まっています。ありがとうございました。
(山田 真代子先生)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・3年前に同じメンバーで行ったまち歩きと比較し、高学年になってからの新たな気づきなど、児童たちの継続的な学習効果が感じられる。
- ・子どもたちそれぞれの問題点や感想が書かれており、一人ひとりが主体的に参加している様子が伝わるように工夫されている。



審査員特別賞

みかた 兵庫県美方広域消防本部BFC香美町立佐津小学校【命を守る佐津っ子レスキュー隊】 4年生 10名



みんなで作ったぼうさいマップが受賞して、とてもびっくりしています。マップを作っている地域ではさい害から命を守る工夫がたくさんされていることがよくわかりました。そのことをぼうさいクイズにまとめ、みんなに知ってもらいました。

(吉田 拓海さん)



子どもたちは「命を守る佐津っ子レスキュー隊」として地域防災について体験活動を通して学習し、防災マップにまとめました。またマップを作ってから学習してきたことを防災クイズにして全校生に広めました。今回の受賞は子どもたちの励みになり、次の意欲にもつながるものと喜んでいきます。ありがとうございました。

(真先 寿治先生)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・地図の上に青い網を津波に見たてたアイデアが斬新で、網の上に魚や波のイラスト等が貼り込まれ丁寧に作られている。
- ・見た目はシンプルだが地図としてわかりやすく地域の紹介や児童たちの感想もしっかり書かれており、まちへの愛着が感じられる。

あいなん 愛媛県愛南町立東海小学校【岩水防災キッズ】 5・6年生 6名



昨年度のマップは津波が中心でしたが、今年は火事と津波の2つを中心に考えました。最初は調べ方が分からなくて不安でしたが、地域の方々に協力していただいて、完成させることができました。入選してとてもうれしいです。

(岡山 大助さん)



昨年度から学習してきた防災・減災の意識が根付いてきたように感じます。特に、自助・共助の精神をマップにも表現することができたのではないかと思います。支えていただいたたくさんの方々に感謝し、入選を誇りに思います。

(山本 雅貴先生)

テーマ：防災

評価されたところ

- ・昨年度のマップの中で紹介した危険箇所が、その後に是正されたことを今年度のマップで報告しており、継続的な教育としての効果が表れている。
- ・津波だけでなく火災時の情報も入れることで、地震・津波・火災に幅広く対応できるように配慮している。



審査員特別賞

高知県四万十町立興津小学校【マタサカナ】

6年生 8名



私たちの作ったマップが審査員特別賞を受賞してとてもうれしく思います。今回、マップ作りをしていく中で初めて知ることがたくさんありました。特に、津波は予想外のところが深くなる事を知り驚きました。
(濱崎 愛さん)



今年は、南海大地震が起こると興津地域にどれくらいの津波が来るのか、一目見て伝わるように表現してみました。その点が評価されたかなと思っています。この受賞を励みに、今後とも地域に役立つマップを作成したいと思います。
(近森 幹夫先生)

テーマ：防災

評価されたところ

- 津波により浸水する場所が色分けされ、避難場所や役立つ施設が書き込まれており、見やすいマップとなっている。また、等高線も書かれており、まちの地形がよくわかる。
- 地域のそれぞれの箇所を丁寧に取材しており、地域との一体感が伝わってくる。

福岡県北九州市立広徳小学校【広徳小学校4-1 2列】

4年生 7名



校区を探検してみると、今まで気づかなかったことがたくさんありました。横断歩道の上の木を切ってくれたり、地域の人の声を聞いて新しい横断歩道ができたり、町の安全対策がとられていることがわかりました。探検してよかったです。
(水杉 仁さん)



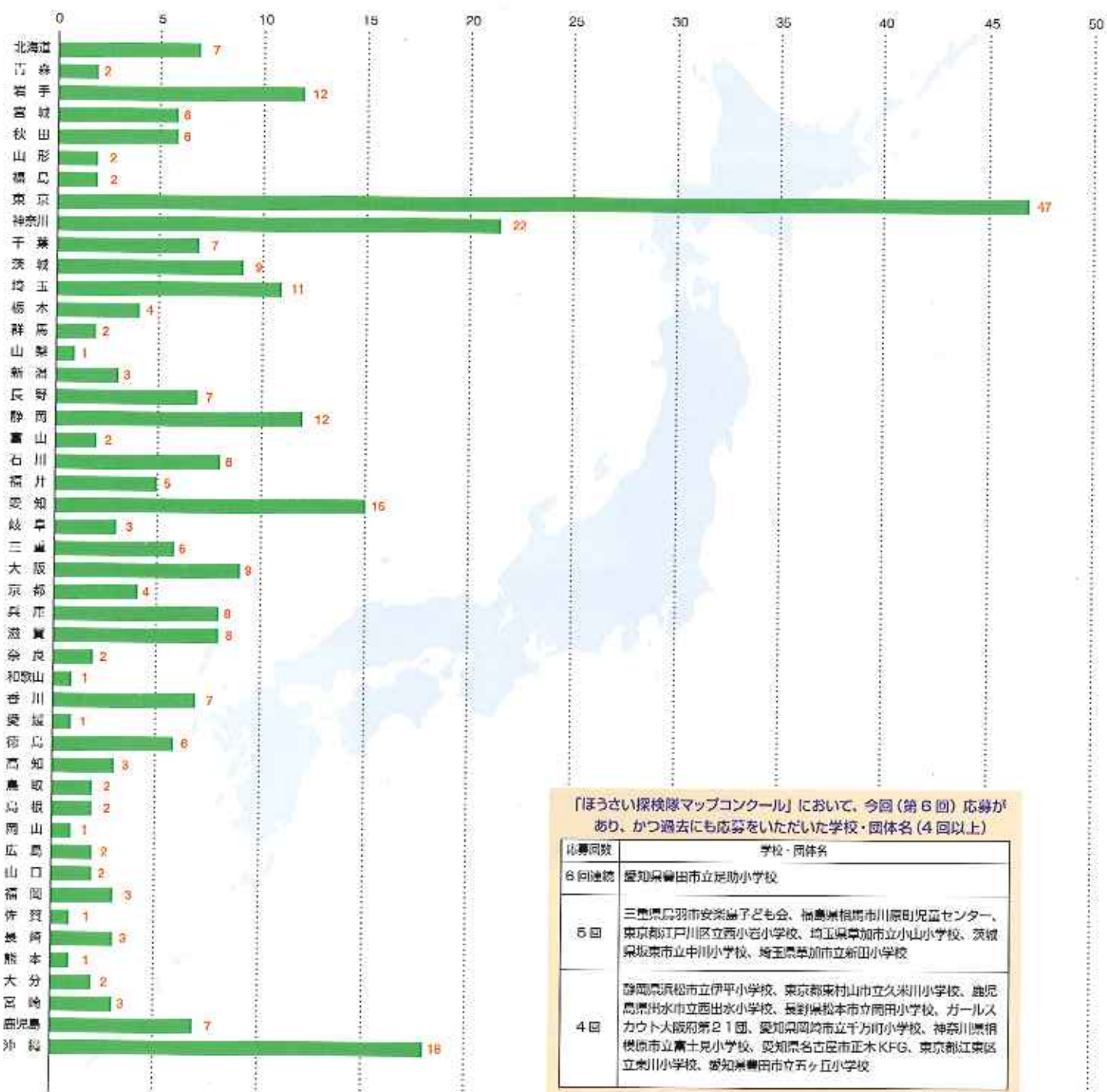
校区を探検して、危険な所を再認識することができました。また、自分たちは地域のいろいろな方々に守られて生活していることもわかり、ぼうさい探検隊マップコンクールに参加してよかったです。ありがとうございました。
(杉田 和子先生)

テーマ：防犯・交通安全

評価されたところ

- 地図を通じて、多くの人に訴えたいという思いが伝わってくる。
- 通学路の街灯を数えたり、昼と夜で街灯がある場所・ない場所の写真を載せて比較するなど、まちを丹念に歩いていることがよくわかる作品となっている。

都道府県別の応募状況（学校・団体数）



「ぼうさい探検隊マップコンクール」において、今回（第6回）応募があり、かつ過去にも応募をいただいた学校・団体名（4回以上）

応募回数	学校・団体名
6回連続	愛知県豊田市長尾助小学校
6回	三重県鳥羽市安楽編子ども会、福島県相馬市川原町児童センター、東京都江戸川区立西小若小学校、埼玉県草加市立小山小学校、茨城県茨城市立中川小学校、埼玉県草加市立新田小学校
4回	静岡県浜松市立伊平小学校、東京都東村山市立久米川小学校、鹿児島県出水市立西出水小学校、長野県松本市立岡田小学校、ガールスカウト大阪府第21団、愛知県岡崎市立千方町小学校、神奈川県相模原市立富士見小学校、愛知県名古屋市長木 KFG、東京都江東区立東川小学校、愛知県豊田市長五ヶ丘小学校

万一の時のために —— 損害保険 ——

火災や事故にあわない、あってもその被害を小さくするための防災の知識を持ち、日ごろから準備をしておくことが大切です。

しかし、万一災害などで自分の住宅などに被害が生じた場合、修理費などが発生します。こうした事故への備えとして損害保険の知識をもち、必要な保険契約をしておくことは、自分や家族の生活を守る大切な備えとなります。

「ぼうさい探検隊」とは…

子どもたちが楽しみながらまちを探検し、まちにある防災、防犯、交通安全の施設・設備を発見してマップにまとめる活動のこトです。マップ作成後は、発表を通してまちの安全・安心を振り返ります。子どもたちの「防災意識が高まる」だけでなく、まさに「地域ぐるみの防災“共育”」が着実に深まり、コミュニティーの強化にもつながります。



まちなか探検



マップづくり



マップをもとに発表

社団法人 日本損害保険協会

〒101-8335

東京都千代田区神田淡路町 2-9

URL <http://www.sonpo.or.jp/>

(お問い合わせ先) 生活サービス部

TEL:03-3255-1294

FAX:03-3255-1236



自動車探検しています。



かりがえのない環境と安心を守るために
(社)日本損害保険協会はISO14001を認証しています。

社団法人 日本損害保険協会 会員会社

あいおい損保	スミセイ損保	日新火災
朝日火災	セコム損害保険	ニッセイ同和損保
アドリック損保	セゾン自動車火災	日本興亜損保
アニコム損保	ソニー損保	日本地震
イーデザイン損保	損保ジャパン	日立キャピタル損保
エイチ・エス損保	そんぽ24	富士火災
SBI損保	大同火災	三井住友海上
共栄火災	東京海上日動	三井ダイレクト
ジェイアイ	トーア再保険	明治安田損保

2010年2月現在(会員会社27社50自願)